



2021年3月期第2四半期 決算説明会

2020年11月26日
昭和産業株式会社



Agenda

- 1 2021年3月期第2四半期 業績概要**
- 2 2021年3月期 業績予想**
- 3 中期経営計画20-22の進捗状況**
- 4 その他施策**
- 5 参考資料**

連結業績概要

単位：億円

	2021年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減	前期比
売上高	1,241	1,281	▲39	▲3.1%
営業利益	41	50	▲8	▲17.4%
経常利益	49	59	▲9	▲15.8%
四半期純利益（※）	69	45	24	53.6%

※親会社株主に帰属する四半期純利益

売上高

- ・＜良化＞ 家庭用食品、配合飼料等の販売数量の増加
- ・＜悪化＞ 業務用小麦粉、プレミックス、油脂、糖質の販売数量の減少

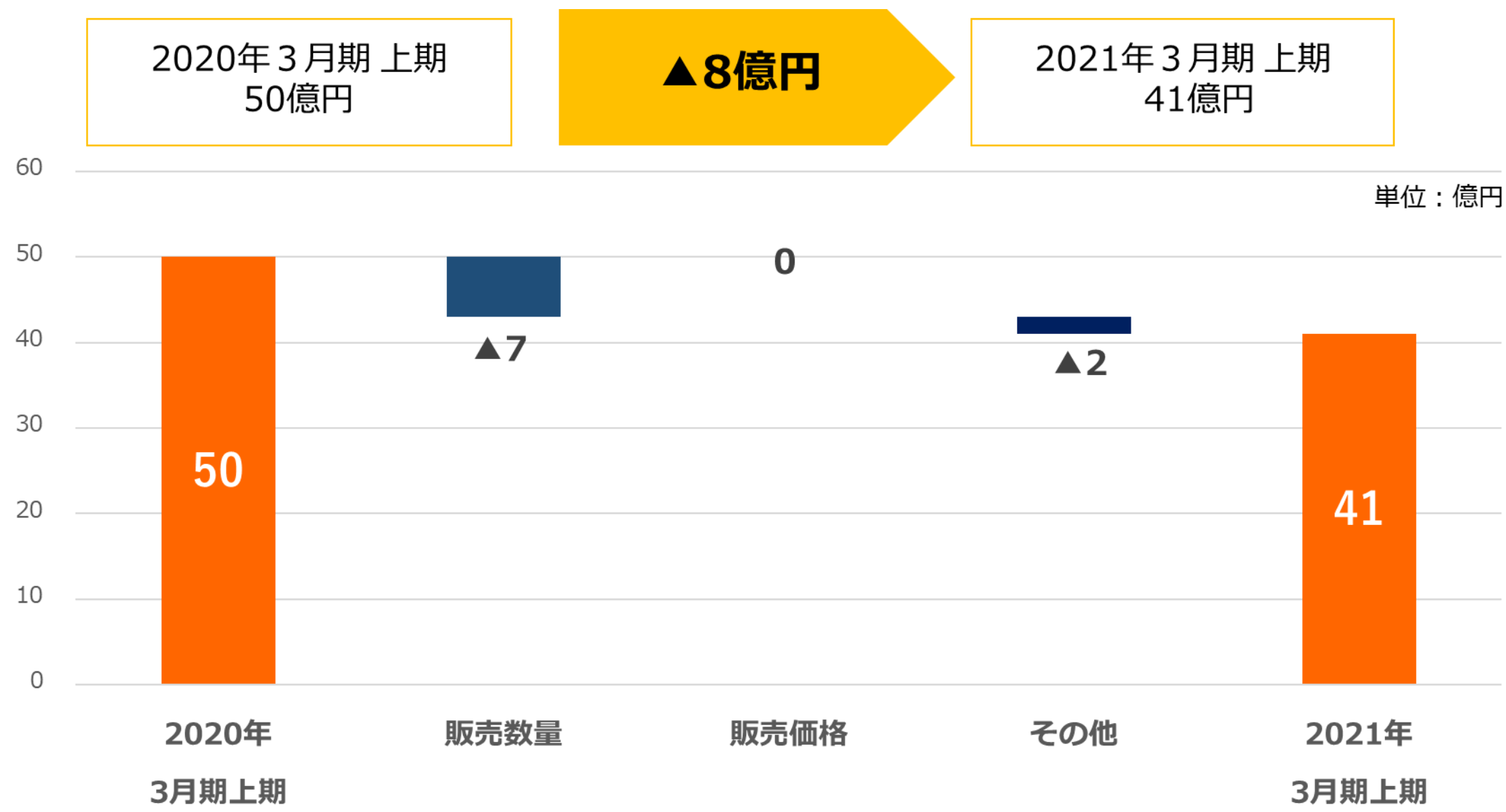
営業利益・経常利益

- ・＜良化＞ 糖質事業の価格改定の進捗
- ・＜悪化＞ 製粉事業、油脂食品事業の販売数量減少

四半期純利益

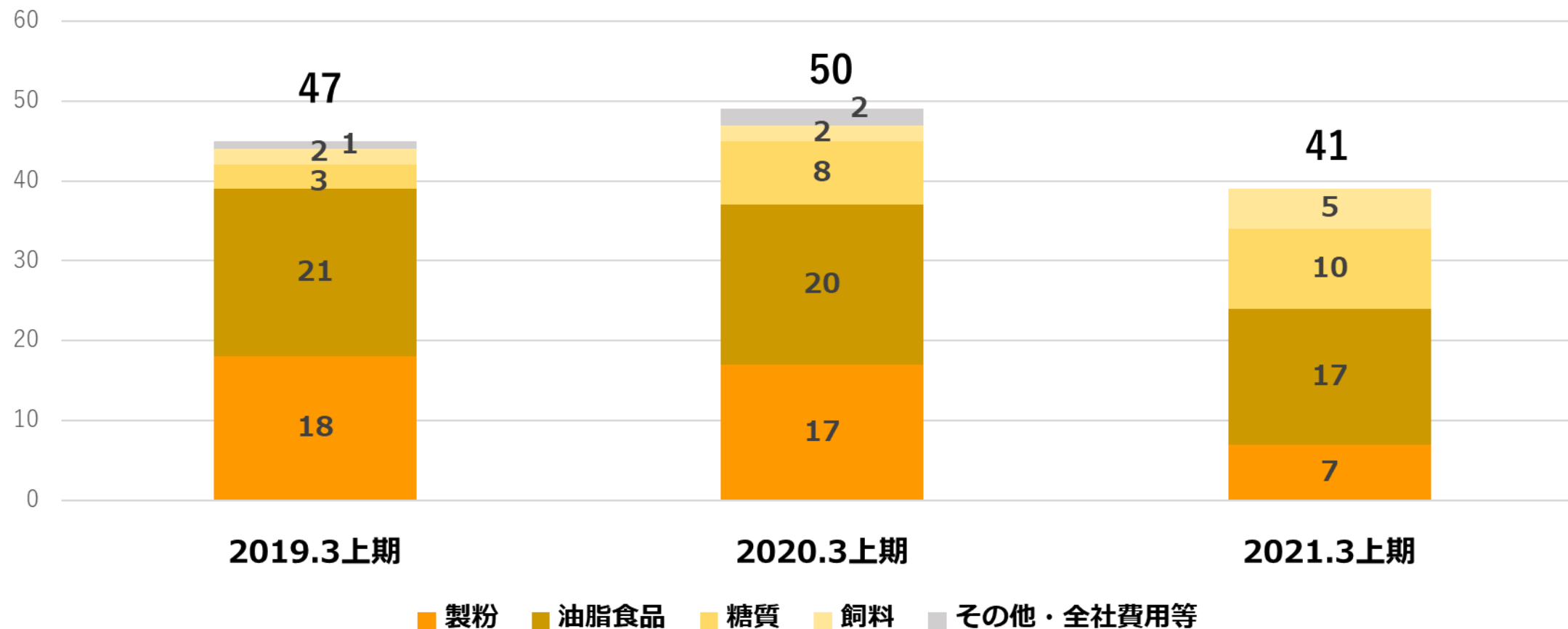
- ・＜良化＞ ボーソー油脂(株)子会社化による負ののれん（34億円）

連結営業利益の増減要因



セグメント別営業利益

単位：億円



- 製粉事業は前期比▲54.4%、油脂食品事業は前期比▲15.6%の減益
- 糖質事業は前期比26.8%、飼料事業は前期比114.1%の増益

連結貸借対照表の概要

2020年3月期 上期
総資産 1,734億円

123億円

2021年3月期 上期
総資産 1,857億円

流動資産 +5

現金及び預金

20

▲18

売上債権

負債 +27

▲32

仕入債務

有利子負債

45

繰延税金負債

14

固定資産 +118

有形固定資産

69

投資有価証券

50

純資産 +95

四半期純利益

69

▲10

配当金支払

自己株式

16

有利子負債

338億円

+45億円

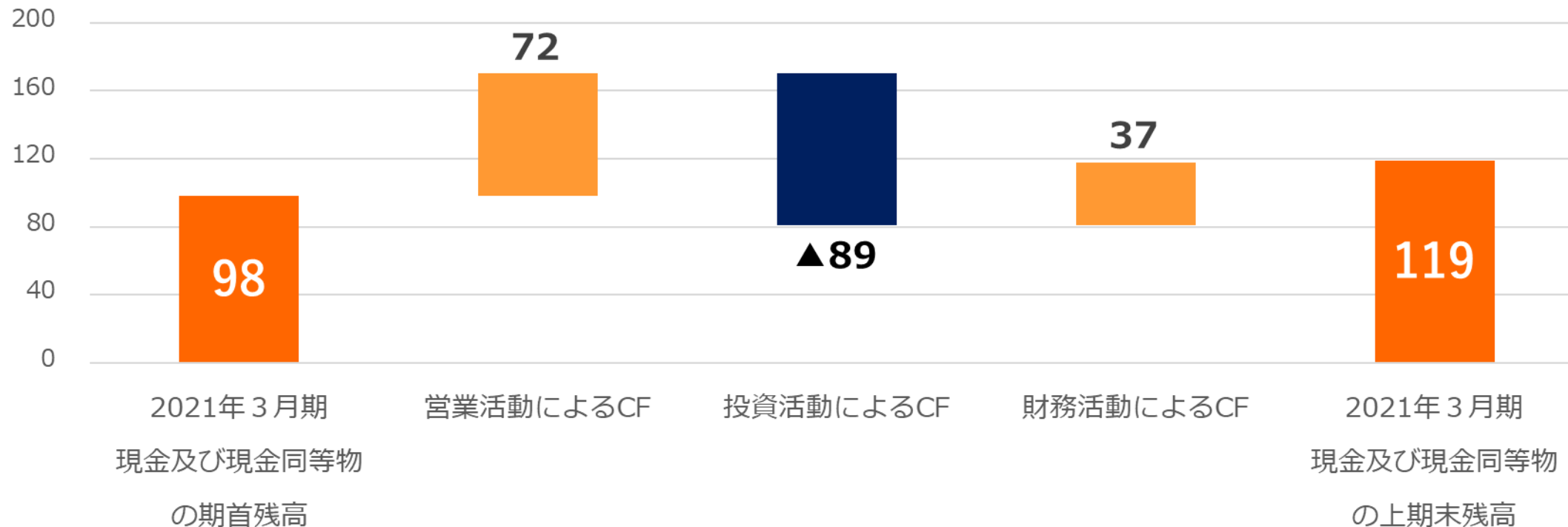
自己資本比率

51.0%

+1.8%

キャッシュ・フローの概要

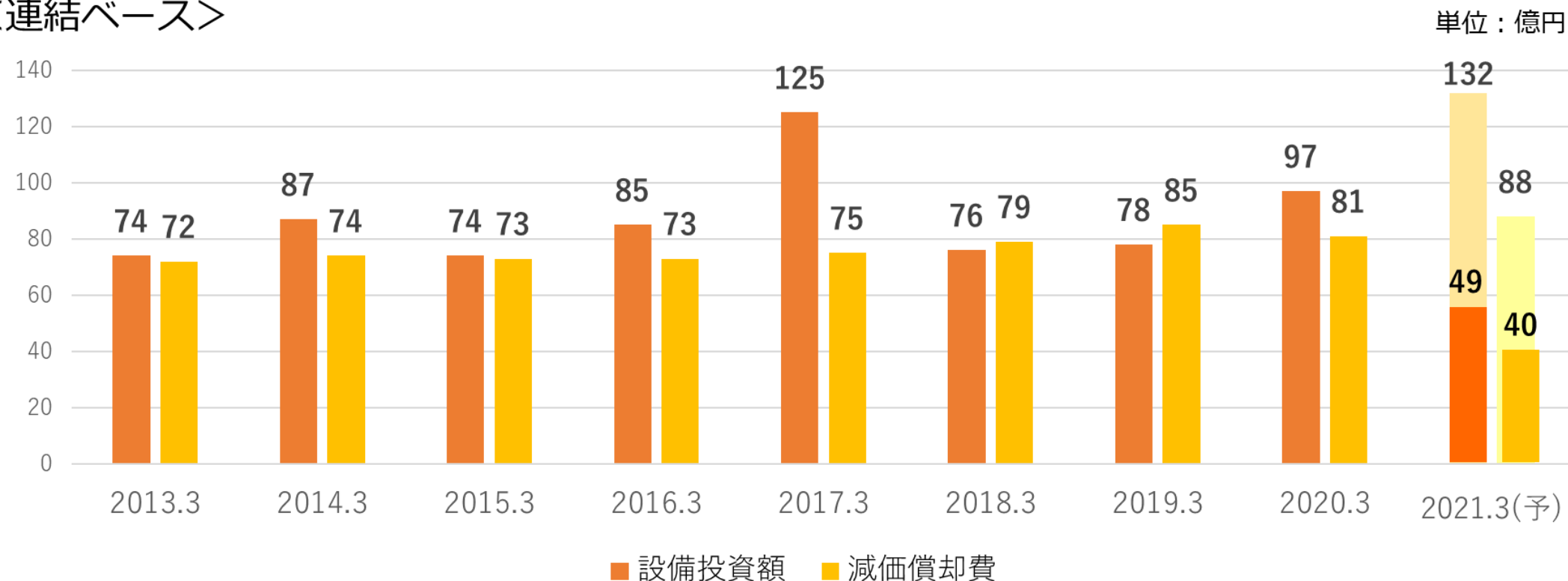
単位：億円



- 営業C F：税金等調整前四半期純利益、減価償却費等による資金の増加
- 投資C F：台湾2社の株式取得、有形固定資産の取得等による支出
- 財務C F：短期借入金及びコマーシャルペーパーの発行等による増加
- 現預金残高：期首比20億円の増加

設備投資額・減価償却費の推移

<連結ベース>



【設備投資】

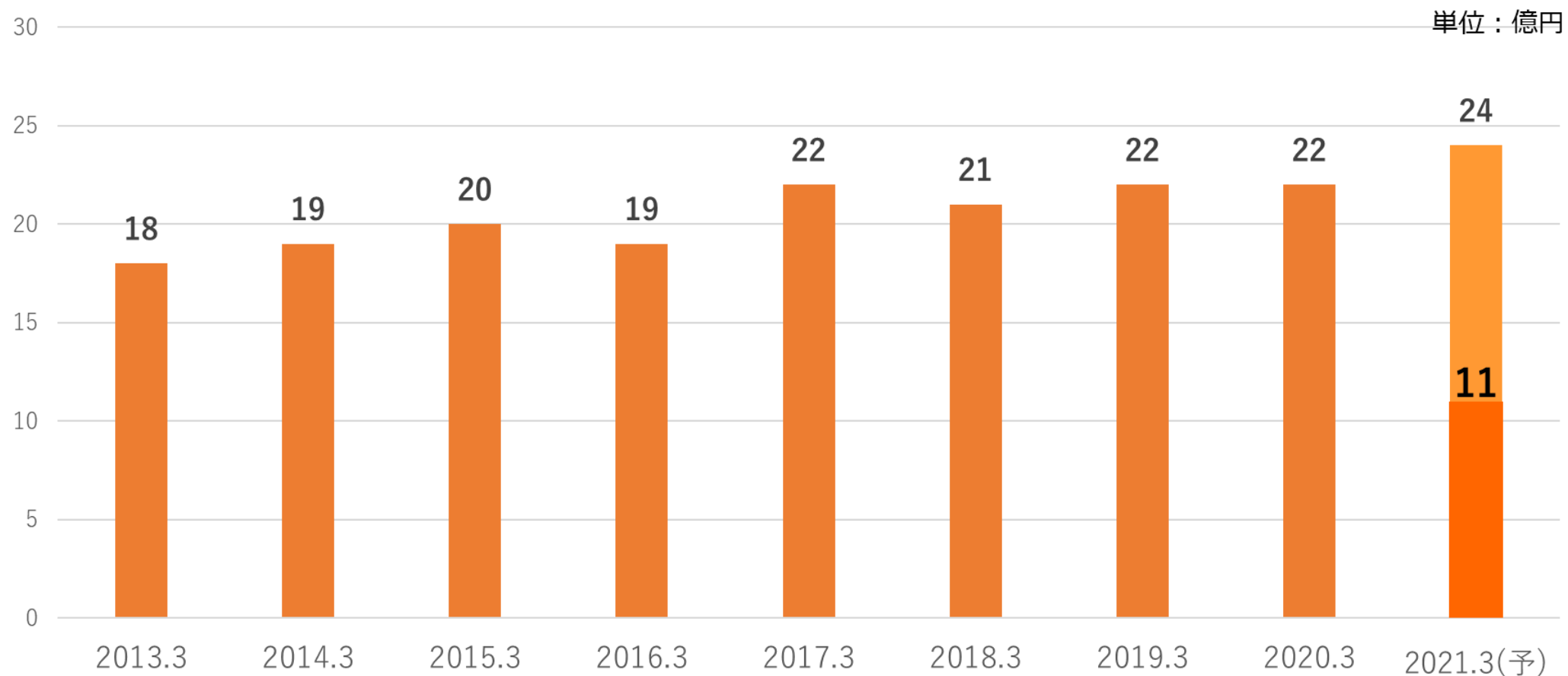
- 鹿島工場の製油工場、荷役設備、船橋工場の新プレミックス工場建設等実施

【減価償却費】

- 鹿島工場の新規設備稼働などにより、約7億円の増額の88億円を予定

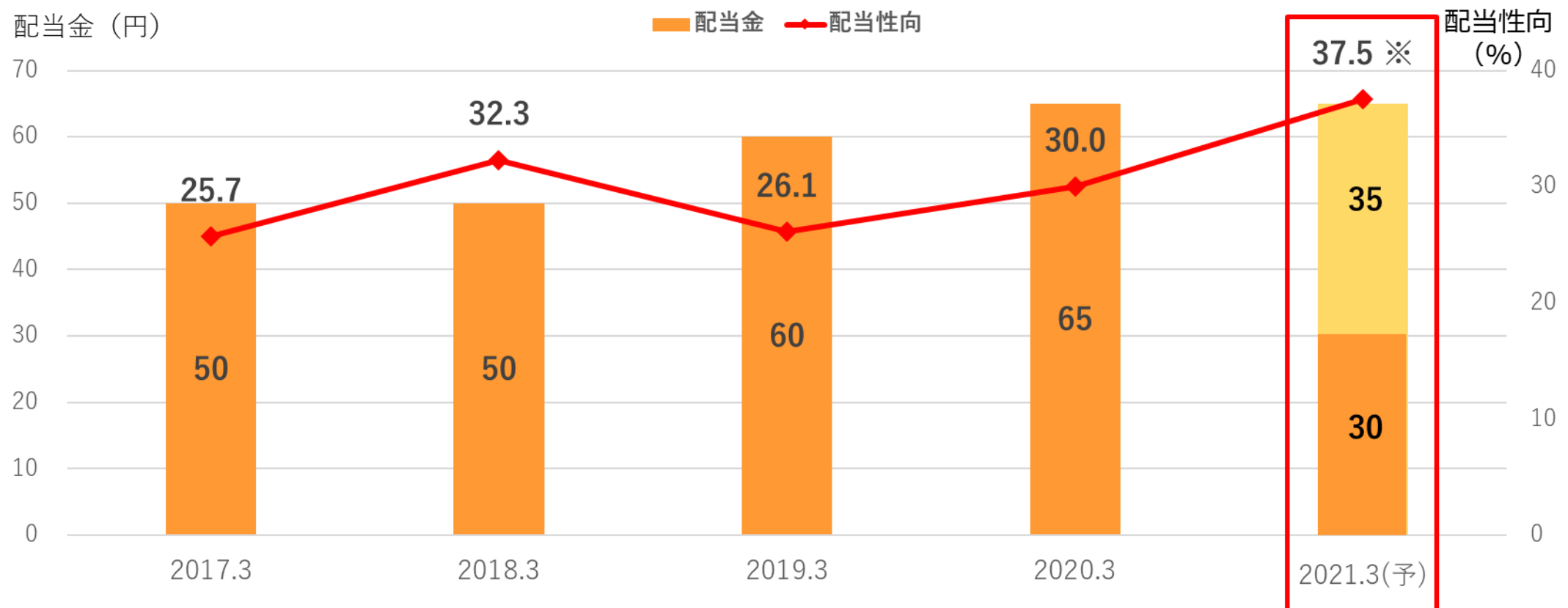
研究開発費の推移

＜連結ベース＞



株主還元（配当）

1株あたりの配当金・配当性向の推移



※2021年3月期の配当性向は、負ののれんによる影響は含んでいません

配当性向

目標：30%程度

Agenda

- 1** 2021年3月期第2四半期 業績概要
- 2** 2021年3月期 業績予想
- 3** 中期経営計画20-22の進捗状況
- 4** その他施策
- 5** 参考資料

2021年3月期 業績予想

単位：億円

	2021年3月期 (①修正予想)	2021年3月期 (②当初予想)	差異 (②-①)	増減率	2020年3月期 (実績)
売上高	2,540	2,560	▲20	▲0.8%	2,540
営業利益	76	84	▲8	▲9.5%	88
経常利益	85	92	▲7	▲7.6%	101
当期純利益 (※)	90	65	25	38.5%	67

※親会社株主に帰属する当期純利益

売上高

- ・＜良化＞ ボーソー油脂子会社化による販売数量増加を見込む
- ・＜悪化＞ 新型コロナウイルス感染症の影響による販売数量減少は、第3四半期以降も続く見込み

営業利益・経常利益

- ・＜悪化＞ 外食、インバウンド、土産、イベント向けの需要減は第3四半期以降も続く見込み

当期純利益

- ・＜良化＞ ボーソー油脂(株)子会社化による負ののれん (34億円)

2021年3月期 セグメント別業績予想

単位：億円

売上高	通期予想 (①修正後)	通期予想 (②当初)	差異 (②-①)	上期実績	下期予想
製粉	760	800	▲40	371	389
油脂食品	880	818	62	421	459
糖質	340	355	▲15	170	170
飼料	510	532	▲22	252	258
その他	50	52	▲2	24	26
合計(連結)	2,540	2,560	▲20	1,241	1,299

営業利益	通期予想 (①修正後)	通期予想 (②当初)	差異 (②-①)	上期実績	下期予想
製粉	17	28	▲11	7	10
油脂食品	29	31	▲2	17	12
糖質	17	13	4	10	7
飼料	10	8	2	5	5
その他・全社費用等	1	1	0	0	1
合計(連結)	76	84	▲8	41	35

【セグメントについて】 ・2021年3月期より、セグメントは①製粉事業、②油脂食品事業、③糖質事業、④飼料事業、⑤その他に変更しています

セグメント別業績予想：製粉事業

【主な事業内容】

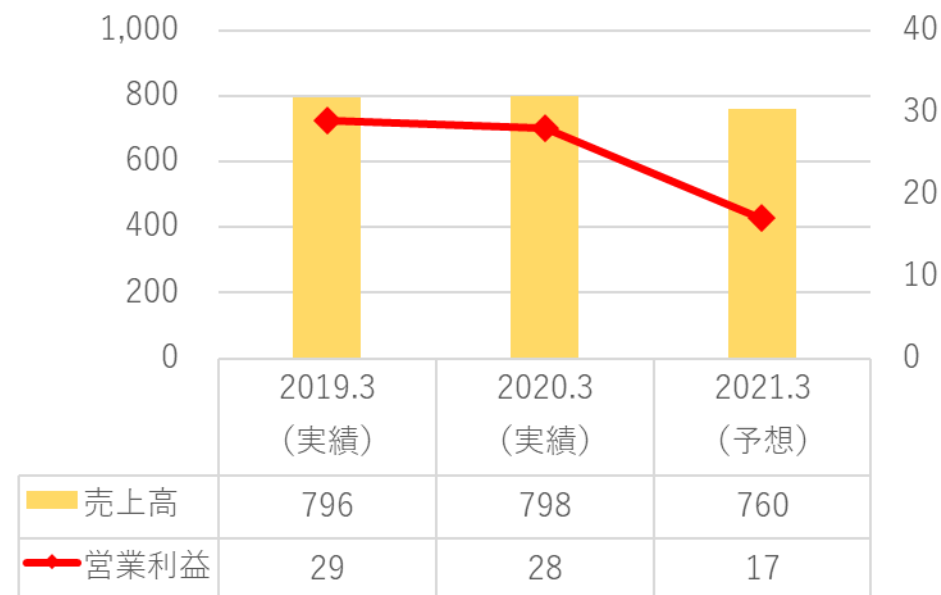
小麦粉、プレミックス、小麦粉周辺食材、パン、ふすま



製粉事業

(単位：億円)

■ 売上高 ▲ 営業利益



※上記表における数字は、新セグメントに組み替えて表示しています

【上期実績・新型コロナウイルス感染症の影響】

- 家庭で消費されるパン、麺用小麦粉の販売は好調
- 外食、インバウンド、土産品、イベント、コンビニエンスストア向け等で消費される製品群は大幅に減少

【下期施策】

- マーケット分析力を生かした「価値提案型営業」を通じ、食のニーズ変化への対応（テイクアウト、デリバリー、省人化対応等）
- より利益率の高いチャネルに注力し、グループ間シナジーの発揮による新たな需要創出による拡販
- 販売増に合わせた設備増強（小麦粉、プレミックス）

セグメント別業績予想：油脂食品事業

【主な事業内容】

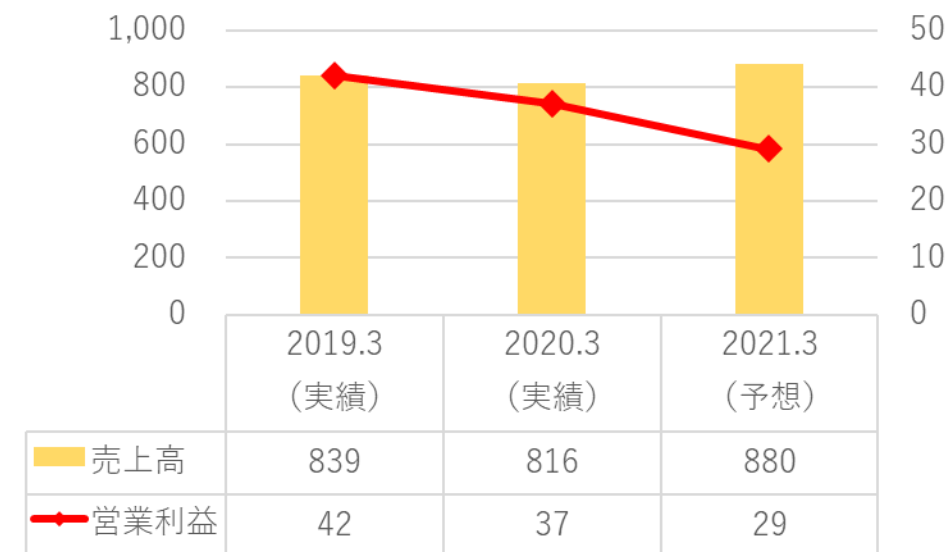
食用油、大豆蛋白、食品用大豆、プレミックス、パスタ、乾麺、健康食品、ギフトセット、米、脱脂大豆、菜種粕、冷凍生地、冷凍スナック、冷凍惣菜



油脂食品事業

(単位：億円)

■ 売上高 ◆ 営業利益



※上記表における数字は、新セグメントに組み替えて表示しています

【上期実績・新型コロナウイルス感染症の影響】

- 業務用：外食、インバウンド、給食、イベント向け等の油脂、プレミックス製品の販売減少
- 家庭用：内食需要の高まりにより、家庭用製品全体（食用油、プレミックス、パスタ等）販売増加

【下期施策】

- 業務用：
 - ・ボーソー油脂(株)の連結子会社化によるコストシナジーの追求、および課題解決型提案営業の強化
 - ・油脂製品の価格改定、および販売管理の徹底
- 家庭用：
 - ・プレミアムオイルキャンペーン実施による拡販、およびホットケーキミックスSNS連動による販促実施
 - ・天ぷら粉60周年に向けたPR強化

セグメント別業績予想：糖質事業

【主な事業内容】

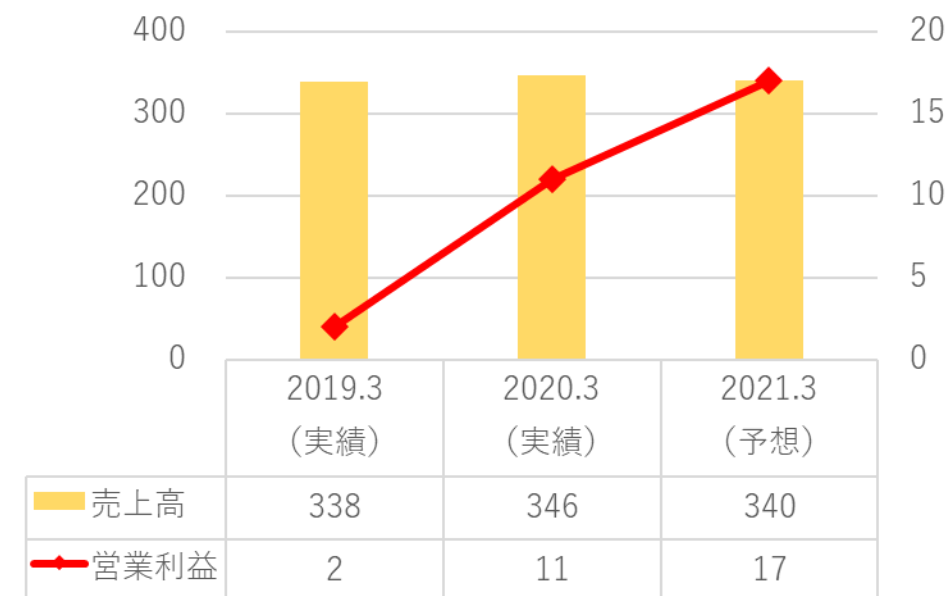
糖化製品、コーンスターチ、加工でんぷん、粗酵素、コーングルテン
フィード、コーングルテンミール、コーンジャーム



糖質事業

(単位：億円)

■ 売上高 ◆ 営業利益



【上期実績・新型コロナウイルス感染症の影響】

- 糖化品、コーンスターチ、加工でん粉のいずれのカテゴリーも販売減少
- 用途別では、段ボール向けは好調であったが、飲料、ビール、土産菓子類は販売減少

【下期施策】

- 他事業とシナジーが発揮できる菓子・ベーカリー市場に注力
- マーケット視点でのアプリケーション提案の強化

セグメント別業績予想：飼料事業

【主な事業内容】

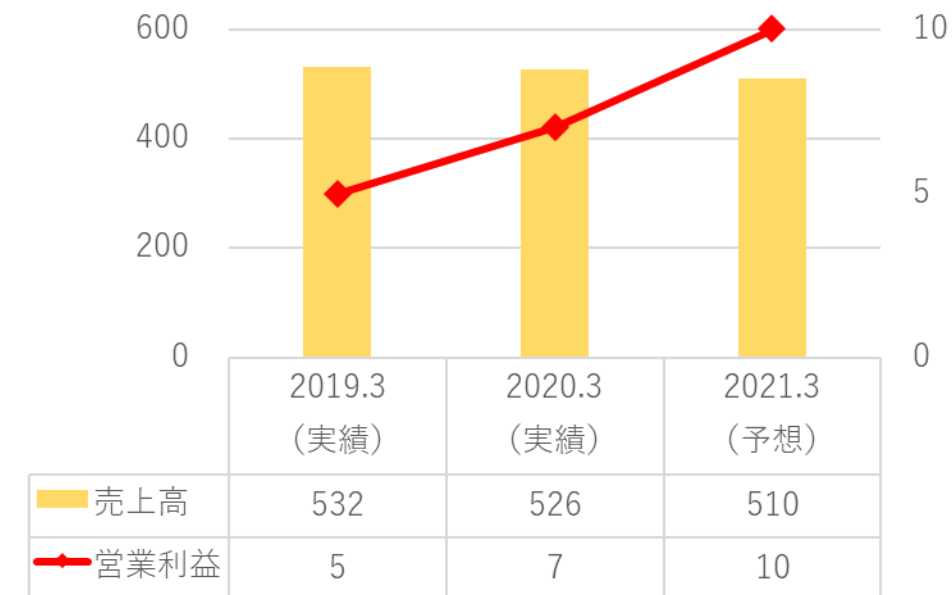
配合飼料、鶏卵および鶏卵加工品



飼料事業

(単位：億円)

■ 売上高 ◆ 営業利益



【上期実績・新型コロナウイルス感染症の影響】

- 配合飼料の販売については、大きな影響はない
- 畜産物については、外食用の需要減退の影響を受け販売減少

【上期施策】

- 自社の優位性を活かした、配合飼料の拡販と収益確保を図る
- 昭和鶏卵(株)の卵の販売強化と飼料拡販
- 高付加価値製品である人工乳やオリゴ糖飼料のアプローチによる新規獲得化

Agenda

- 1** 2021年3月期第2四半期 業績概要
- 2** 2021年3月期 業績予想
- 3** 中期経営計画20-22の進捗状況
- 4** その他施策
- 5** 参考資料

長期ビジョンの概要

ありたい姿（長期ビジョン）

SHOWA Next Stage for 2025

〔期間〕 2017年度～2025年度（9年間）

〔目標〕 連結売上高 4,000億円、連結経常利益200億円

長期ビジョンの実現に向け、
中期経営計画を3次にわたり展開



中期経営計画20-22概要

基本コンセプト

SHOWA New Value Creation

～SHOWAだからできる新たな価値とは～

〔期間〕 2020年度～2022年度（3年間）

基本方針

確立

基本戦略

- ①基盤事業の強化
- ②事業領域の拡大
- ③社会的課題解決への貢献
- ④プラットフォームの再構築
- ⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化

数値目標

連結売上高

2,800億円

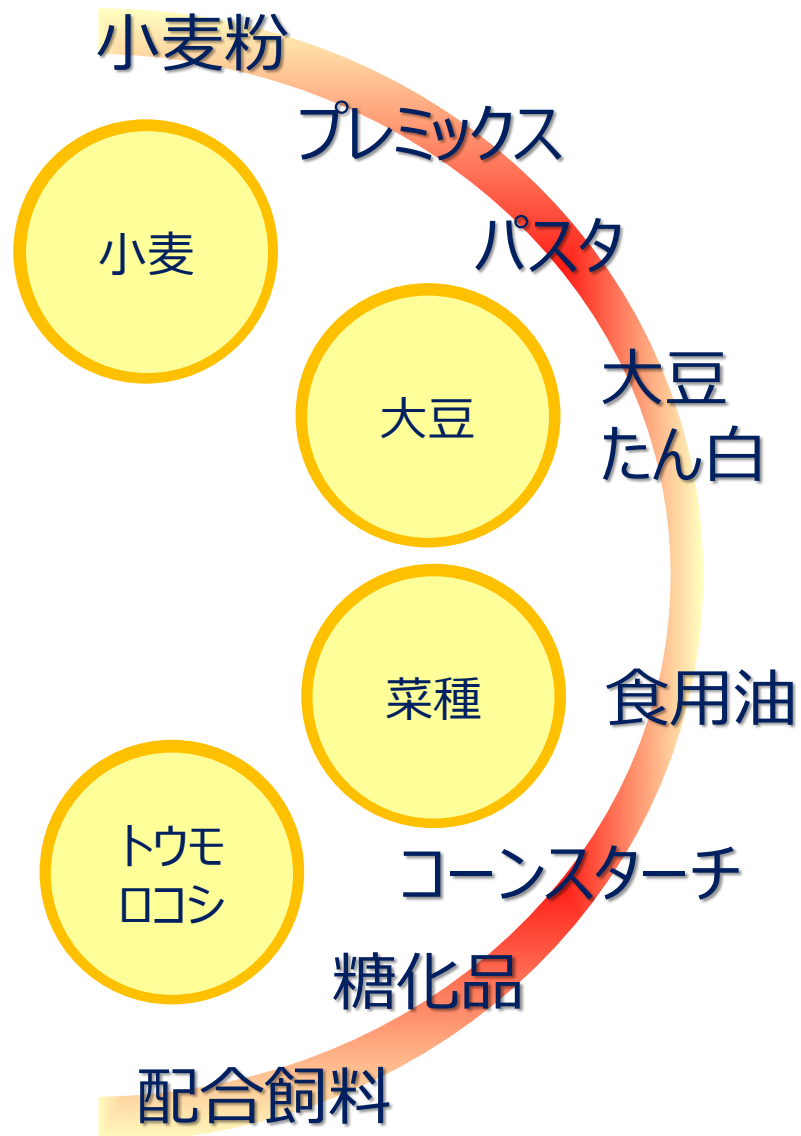
連結経常利益

130億円

ROE

9.0%以上

基本戦略①基盤事業の強化



(1) グループ会社間の連携強化によるサプライチェーン改革

(2) シェア拡大に向けた生産能力増強・ソリューション提案強化

・船橋プレミックス工場新設

(3) 高付加価値商品の開発

基盤事業の強化

船橋プレミックス工場新設（2020年8月着工）

- 最新の自動化設備やIoTによる高い生産性を実現し、プレミックスの生産を強化する
- 労働力不足への対応や価格競争力の確保を図る
- 食品安全にも追及した工場設計とすることで、よりお客様にご満足いただける製品の提供を目指す



【2020年11月12日撮影】

2020年11月現在

➤ 杭工事完了、基礎の鉄筋工事实施中

投資額	56億円
建設面積	鉄骨造5階建 延床面積約11,000m ²
事業内容	プレミックスの製造・包装
生産能力	年間約28,000 t（1.8倍）
操業開始	2022年6月（予定）



【完成予想図】

基本戦略②事業領域の拡大

消費スタイル変化に伴う国内外の新たな領域・地域での市場拡大

国内市場

- (1) 冷凍食品事業の強化
- (2) 植物由来食品の開発強化
 - ・**ボーソー油脂株式会社 子会社化**
 - ・**大豆たんぱく販売強化**
- (3) アグリビジネスへの挑戦
 - ・**植物工場実験プラントの建設**

海外市場

- (1) ASEAN
- (2) 台湾
 - ・**台湾「國成麵粉」「中一食品」
合併事業開始**
- (3) 中国

事業領域の拡大

ボーソー油脂株式会社 子会社化（2020年9月30日成立）

- 当社グループに「米」という油種を取り込むことで、競争力強化を図る
- 両社の持つ経営資源や知見を相互に活用し、両社における事業のシナジーを最大化させる

両社シナジー効果	
1	製造体制の統合による 生産効率の向上
2	両社の商材と販路を 活用したクロスセル
3	物流・購買コストの 削減
4	研究開発の知見の相互補完 による開発の加速

➤ 家庭用食品の販売強化

⇒家庭用新商品「健康こめ油」を発売
(2020年9月1日)



➤ 搾油原料、容器包材資材、工場副資材の共同調達の実施

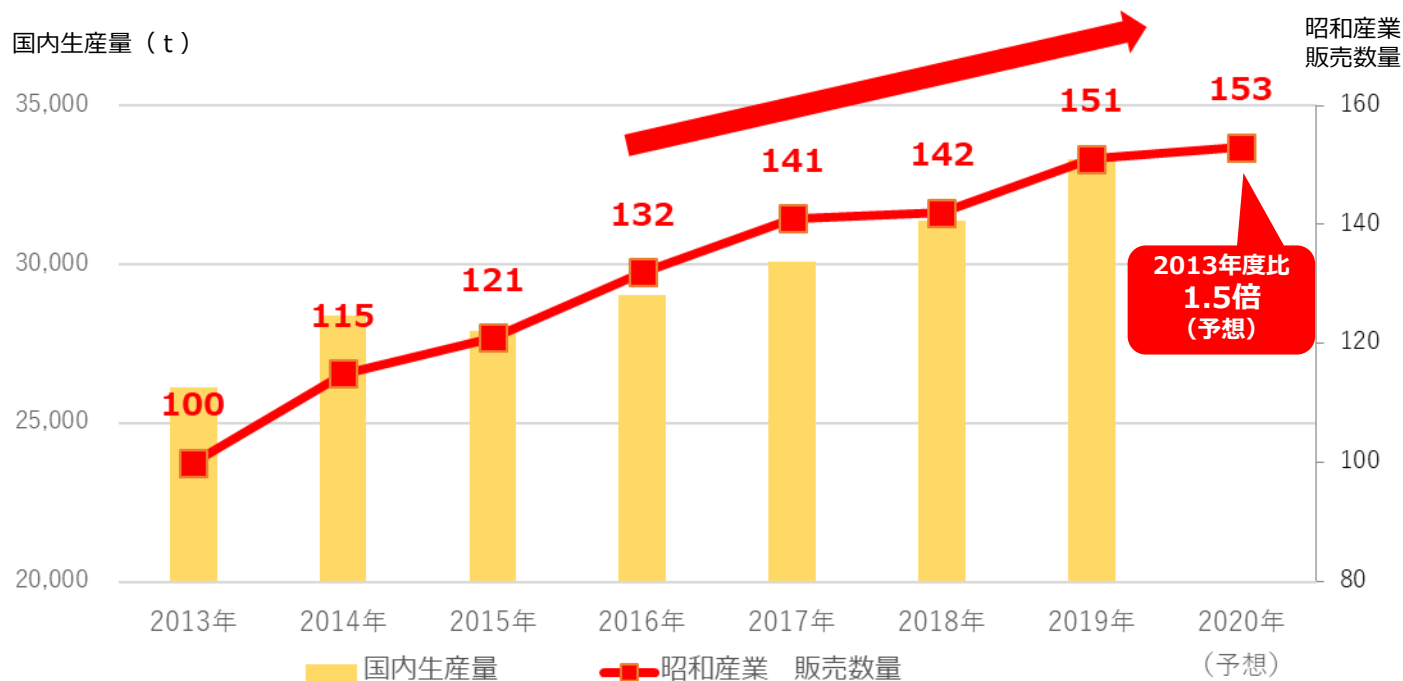
⇒油脂製品製造時に使用する資材、包材の共同購入開始
(2020年10月より)

事業領域の拡大

大豆たんぱく販売強化 ～「B to C」へ展開～

- 鹿島工場大豆たんぱく生産能力増強（110%）⇒2020年3月完成済
- 業務用の知見を活かし、大豆たんぱく製品を一般家庭向けにも提案
- 業務用・家庭用の両面から大豆たんぱくの販売強化を図る

当社業務用大豆たんぱくの販売数量伸長率推移



国内生産量：（一社）日本植物蛋白食品協会より

【2020年秋冬家庭用新商品】



（2020年9月1日発売）



（2020年10月1日発売）

【大豆ミート「まめたん」レシピ提案】



【まめたんレシピ動画】大豆ミートとニラの和風ガパオライス
URL : <https://youtu.be/F1RGgCfv37c>

事業領域の拡大

植物工場実験プラントの建設（2021年春操業開始予定）

- 食品メーカーとしての技術を生かし、人工光型植物工場における野菜の生産・販売を展開
- 新たな事業領域（アグリビジネス）に挑戦することにより、事業拡大を目指す

投資額	約6億円
生産品目	リーフレタスなどの葉菜類
建設地	鹿島第二工場内
生産能力	6千株/日
事業用地	面積 約1,900㎡
操業開始	2021年春（予定）

2020年11月現在

- 品種選定、栽培技術の標準化への対応
- 目標品質の検証



【リーフレタス試作品】

事業領域の拡大

台湾「國成麵粉」「中一食品」合併事業開始により 海外事業で初の持ち分法適用会社へ（2020年5月20日増資完了）

- 「製粉事業」「飼料事業(鶏卵)」で台湾に新規参入
- 小麦粉、鶏卵の製造販売で海外事業を強化し、アジアへの事業展開を加速

	製粉事業	飼料事業（鶏卵）
会社名	國成麵粉股份有限公司	中一食品股份有限公司
事業内容	小麦粉等の製造販売	鶏卵の製造販売等
出資比率	・大成集団 55% ・当社 40% ・その他5%	・大成集団 65% ・当社 35%
進捗	小麦粉の生産性向上および品質改善のための設備更新実施中	日本品質の卵を台湾で生産・供給することを目指し、第一歩として、洗卵選別工場（GPセンター）を建設予定

基本戦略③社会的課題解決への貢献

重点項目・重要課題

環境への配慮

1. 持続可能な生産活動
2. 持続可能な資源活用

穀物ソリューションの進化

3. 多様な価値への対応
4. 安全・安心・安定供給

従業員の活躍推進

5. ダイバーシティ
6. 健康経営
7. 企業市民活動

[CO2排出量の削減] (対2013年度)

➤ グループ全体 2030年度目標 排出量 **26%** 削減への挑戦

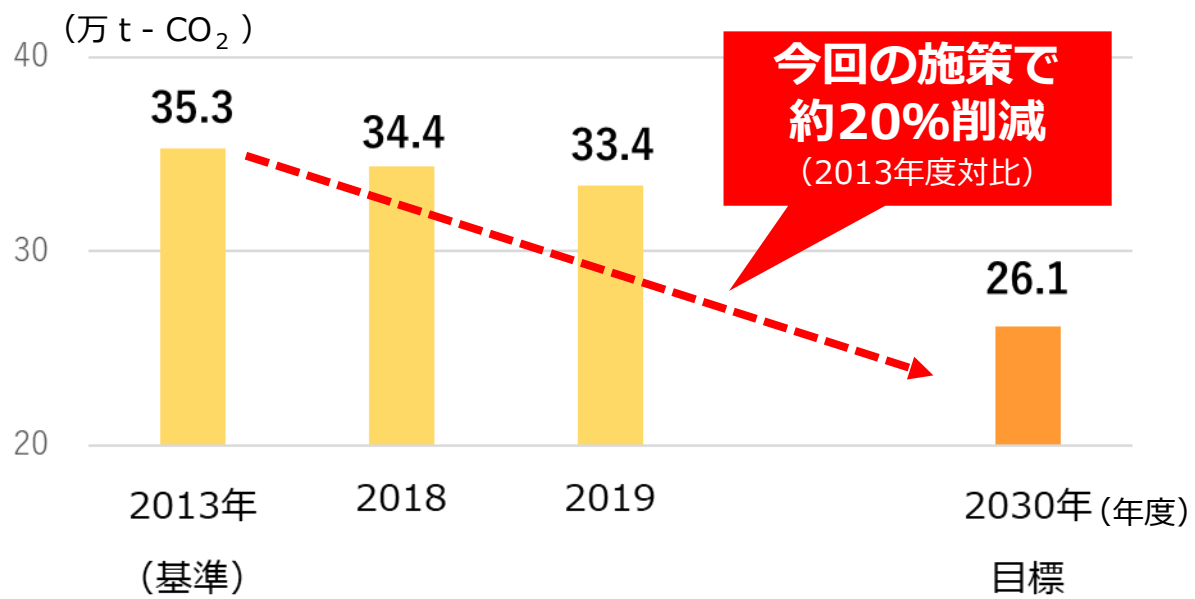
- ・ 鹿島工場コージェネレーション設備の燃料転換
- ・ 当社バイオマスを使用した「ごみ袋」鹿島アントラーズ・エフ・シーと使用開始

社会的課題解決への貢献

鹿島工場コージェネレーション設備の燃料転換

- 鹿島工場コージェネレーション設備の燃料を「石炭」から「都市ガス」にシフトする燃料転換工事を実施し、当社グループにおける石炭使用を廃止
- グループ全体のCO₂排出量を約20%削減（2013年度対比）

CO₂排出量の推移（昭和産業グループ）



投資額	約5億円※
CO ₂ 排出量	グループ全体の生産活動によるCO ₂ 排出量を約20%削減（2013年度対比）
場所	鹿島工場
完成予定	2021年9月（予定）

※本事業は経済産業省の「天然ガスの環境調和等に資する利用促進事業費補助金」を活用した事業となります。



【コージェネレーション設備】

● CO2排出量の算出には、各年度直近の電気事業者別の基礎排出係数を使用しています。
● 2013年度基準排出量には、2014～2018年度にグループ会社となった4社（セントラル製粉株式会社、ガーデンベーカー株式会社、タワーベーカー株式会社、スターベーカー株式会社）の2013年度排出量を含みます。

社会的課題解決への貢献

当社バイオマスを使用した「ごみ袋」

鹿島アントラーズ・エフ・シーと使用開始（2020年7月18日使用開始）

実証実験	
場所	カシマサッカースタジアム
内容	食品残渣や容器を含むごみを対象としたごみ袋の強度や使用感、廃棄物固形燃料化への影響を確認
期間	1年間

【特長】

- 当社バイオマスを20%使用
（非食用小麦粉15%、工業用コーンスターチ5%）
- サトウキビ由来の植物性プラスチックも使用し、
石油由来プラスチックの使用量を44%削減
- 廃棄(焼却)時のCO2排出量を44%削減
- 袋の強度等はJIS規格対応



基本戦略⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化



ステークホルダーエンゲージメントの強化

統合報告書発行（2020年11月20日発行）

- 当社グループ初の「統合報告書2020」を発行
- 価値創造の源泉や、将来に向けた価値創造ストーリーについて、ステークホルダーの皆様に積極的に開示
- 成長戦略の方向性やESG経営への取り組み方針、「食」を中心とした様々な場面における当社グループの活動について視覚的に分かりやすくお伝えすることを目指す



Agenda

- 1** 2021年3月期第2四半期 業績概要
- 2** 2021年3月期 業績予想
- 3** 中期経営計画20-22の進捗状況
- 4** その他施策
- 5** 参考資料

「昭和天ぷら粉」発売60周年



「昭和天ぷら粉」60周年企画 2020年10月1日スタートしました。

「昭和天ぷら粉」60周年企画 第一弾
10月1日を **天ぷら粉の日** に制定！



1960年 発売当時のパッケージ。

太陽・ひまわりをモチーフにしたデザインは
今では「昭和天ぷら粉」の“顔”に。

進化し続ける「昭和天ぷら粉」シリーズ



1983年「天ぷら粉黄金」



1995年「楽々天」



2016年「大地のかがやき」



2020年「おいしく揚がる魔法の天ぷら粉」

「昭和天ぷら粉」60周年企画 第二弾
天ぷら粉レシピ & **レシピ動画** 配信



かぼちゃとクリームチーズのかき揚げ
<https://youtu.be/QmTo-f75PzM>



チーズミルクソースのかぼちゃのニョッキ
<https://youtu.be/ZzUe49gw2T0>

「昭和天ぷら粉」60周年企画 第三弾
「サガミ創業50周年×昭和産業天ぷら粉誕生60周年」コラボ企画



記念企画メニュー

サンエイ糖化株式会社 子会社化

サンエイ糖化株式会社 完全子会社化決議（2020年7月20日付）

- 新たな価値創出の実現により、糖質事業の成長を図る
- 国内での安定供給体制を一層強固なものとし、更なる生産性向上を推進する

所在地	愛知県知多市北浜町24番地の5
資本金	10億円
売上高	146億円（2020年3月期）
従業員	254名（2020年3月31日現在）
事業内容	糖類の製造、加工、販売 医薬品の製造、販売 乳酸菌の製造、販売 飼料、肥料の製造、加工、販売

【サンエイ糖化の特長】

ぶどう糖を主力とし、その他の糖化製品においても開発から製造、販売まで一貫して行い、また医療用途の厳しい品質基準をクリアする等、高い技術力に裏付けられた競争力を保有

Agenda

- 1 2021年3月期第2四半期 業績概要**
- 2 2021年3月期 業績予想**
- 3 中期経営計画20-22の進捗状況**
- 4 その他施策**
- 5 参考資料**

売上高と利益の推移

単位：百万円

	2015年3月期 上期	2016年3月期 上期	2017年3月期 上期	2018年3月期 上期	2019年3月期 上期	2020年3月期 上期	2021年3月期 上期
売上高	123,395	123,646	117,800	116,171	127,777	128,151	124,180
営業利益	4,893	4,121	5,244	3,618	4,755	5,056	4,177
経常利益	5,350	4,584	5,777	4,332	5,551	5,905	4,970
四半期純利益	3,508	3,352	3,604	2,890	3,847	4,503	6,918

セグメント別実績の推移

単位：百万円

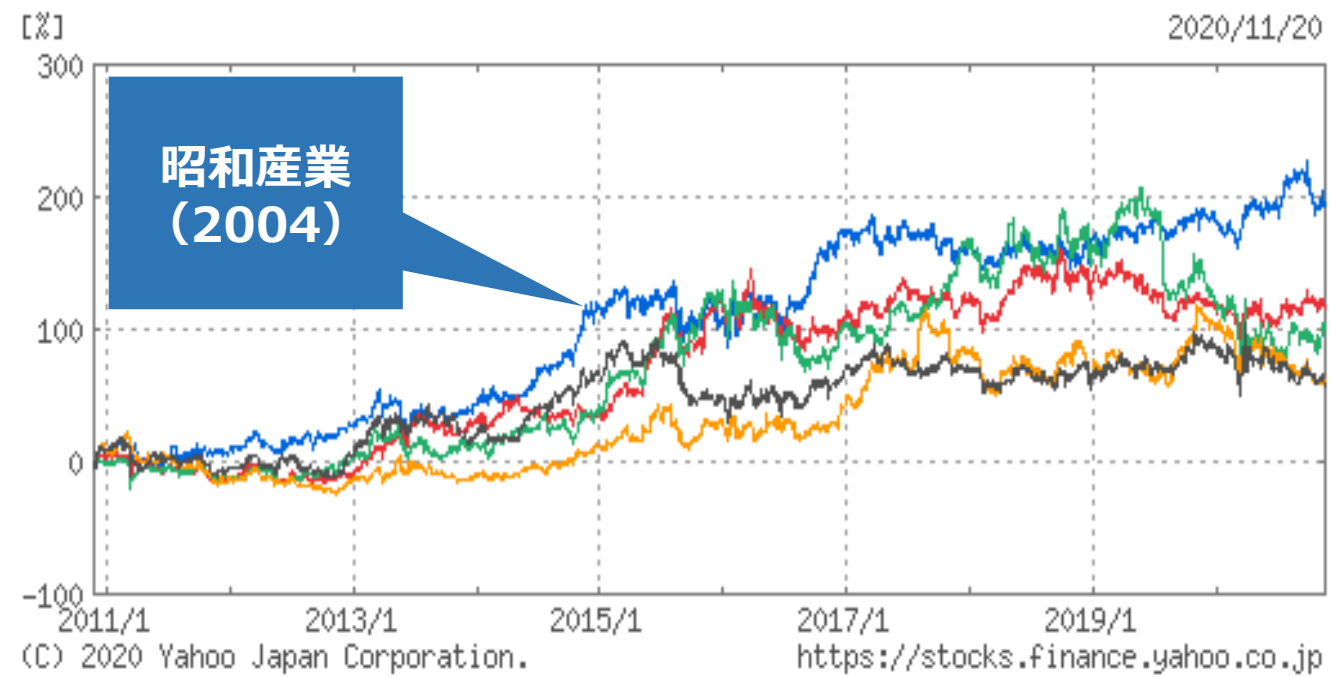
<製粉>	2015年3月期 上期	2016年3月期 上期	2017年3月期 上期	2018年3月期 上期	2019年3月期 上期	2020年3月期 上期	2021年3月期 上期※2
売上高	31,176	33,458	33,287	32,418	41,424	42,056	37,156
営業利益	1,159	1,475	1,779	1,215	1,813	1,732	785
<油脂食品>	2015年3月期 上期※1	2016年3月期 上期※1	2017年3月期 上期	2018年3月期 上期	2019年3月期 上期	2020年3月期 上期	2021年3月期 上期※2
売上高	39,831	39,589	37,891	37,755	39,691	39,587	42,185
営業利益	1,734	466	1,322	1,013	2,159	2,007	1,701
<糖質>	2015年3月期 上期	2016年3月期 上期	2017年3月期 上期	2018年3月期 上期	2019年3月期 上期	2020年3月期 上期	2021年3月期 上期
売上高	18,791	18,518	17,122	17,458	17,513	17,971	17,093
営業利益	1,547	1,622	1,726	906	372	841	1,067
<飼料>	2015年3月期 上期	2016年3月期 上期	2017年3月期 上期	2018年3月期 上期	2019年3月期 上期	2020年3月期 上期	2021年3月期 上期
売上高	30,905	29,587	26,942	25,972	26,533	25,867	25,266
営業利益	131	282	303	332	232	249	533

※1 油脂事業と食品事業を別々に開示していたものを合算したもの

※2 2021年3月期より、製粉事業と油脂食品事業の事業内容の区分を一部変更しております

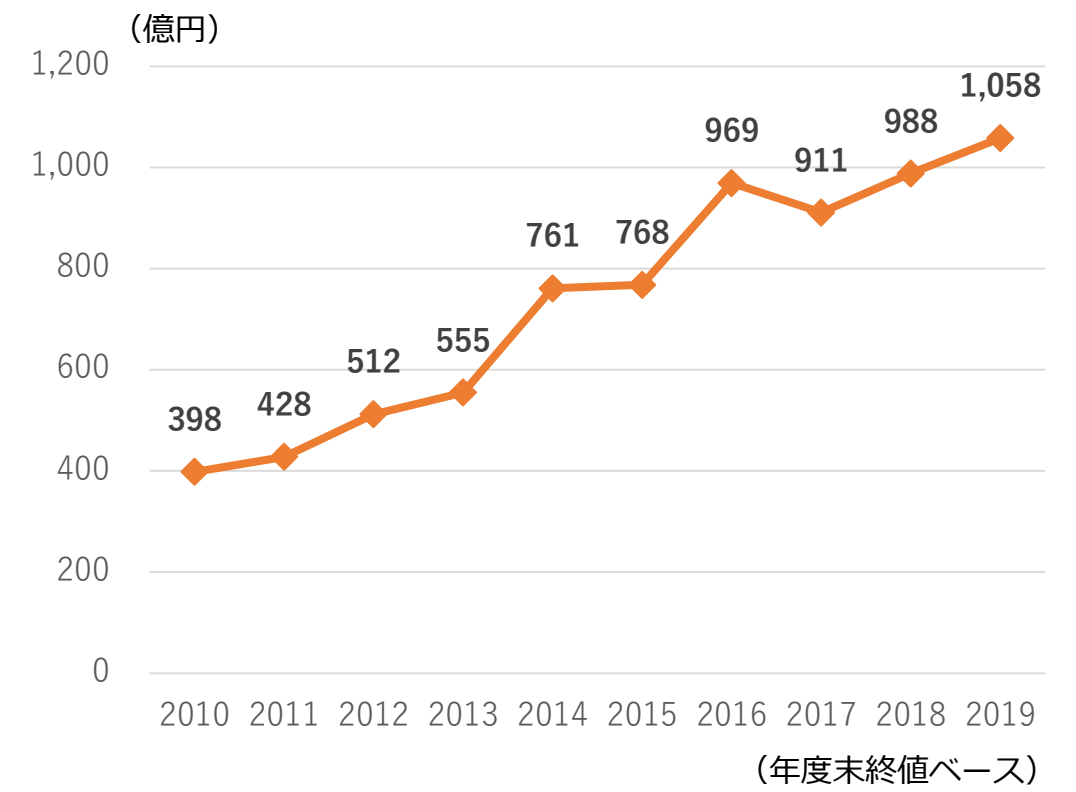
株価と時価総額の推移

株価の推移



出典：Yahoo！ファイナンス

時価総額の推移



※当社調べ



穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業グループ

見通しに関する注意事項

本資料は、現時点で入手可能な情報や、合理的と判断した一定の前提に基づいて策定した数値であり、潜在的なリスクや不確実性などを含んでいることから、その達成や将来の業績を保証するものではありません。

また実際の業績等も本資料における見通し、計画等とは大きく異なる結果となる可能性がありますので、本資料のみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さい。

なお、将来における情報・事象及びそれらに起因する結果にかかわらず、昭和産業グループは当中期経営計画を見直すとは限らず、またその義務を負うものではありません。